

ジョーが私たちに想いを託した

～広島・長崎・福島からのメッセージ～

日時 令和7年 8月16日(土) 開場/16:30 開演/17:00

会場 富士市文化会館ロゼシアター 4階 第一会議室 (蓼原町1750)

講師 片岡輝美氏
日本キリスト教団若松栄町教会員

●講師プロフィール

福島県生まれ。会津若松市在住。1992年、1通の手紙でオダネル氏と出会い、親交を重ねる。同氏の逝去後、妻・坂井貴美子さんから寄贈された写真30点の写真展を2021年より毎夏、日本キリスト教団若松栄町教会で開催。2011年3月に起きた東京電力福島第一原発事故を受け、2週間三重県へ避難。帰還後、同年7月、会津放射能情報センターを設立し代表となり、脱核脱被ばくの活動を続ける。

定員70名 入場無料 要申込み(先着順)



焼き場にて、長崎、1945年 Cremation Site, Nagasaki 1945/PHOTO by Joe O'Donnell



ジョー・オダネル Joe O'Donnell

ペンシルベニア州ジョンズタウン生まれ。占領軍カメラマンとして佐世保に上陸。長崎、広島の惨状を米本国へ報告。非公式にカメラで撮影した300枚のネガは、戦争の忌まわしい記録と共にトランクに封印する。彫刻「Once」と出会い、45年振りにトランクを開けるが、連日悪夢に苦しむ。しかし「私は、あの体験を語り伝えなければならない」と、地元の学校や教会、公共の場で「反戦・反核・平和」を訴える写真展を始める。1993年、写真展と講演会開催のために訪れた若松栄町教会で坂井貴美子さんに出会う。1995年、小学館から念願の写真集「トランクの中の日本」を出版。2007年8月9日、85歳で逝去。

この少年が死んでしまった弟をつれて焼き場にやってきたとき、私は初めて軍隊の影響がこんな幼い子どもにも及んでいることを知った。アメリカの少年はともこんなことはできないだろう。直立不動の姿勢で、何の感情も見せず、涙も流さなかった。

そばに行つてなぐさめてやりたいと思つたが、それもできなかった。もし私がそうすれば、彼の苦痛と悲しみを必死でこらえている力をくずしてしまうだろう。私はなす術もなく、立ちつくしていた。

ジョー・オダネル

申込み 電話で 0545-55-2736 富士市シティプロモーション課 (平日)8:30~17:00 WEBで 右記二次元コードを読み取って入力 申込期間/7月15日(火)~31日(木)



主催 富士市 核兵器廃絶平和富士市民の会